

10.2 予測

1) 施設の存在

(1) 予測内容

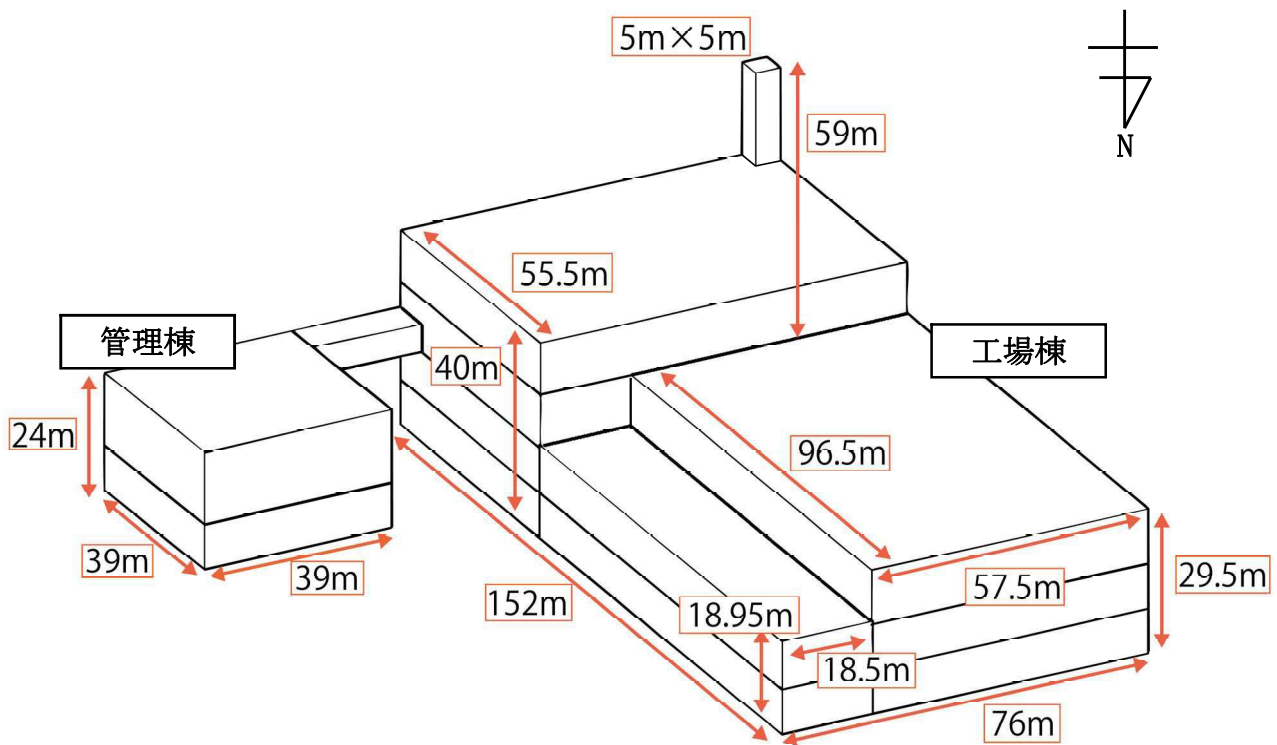
主要な眺望景観及び主要な眺望地点の変化の程度を予測した。

(2) 予測方法等

① 予測方法

主要な眺望景観の状況については、現地調査をもとに、フォトモンタージュを作成し、視覚的な表現方法により予測を行った。主要な眺望地点の状況については、既存資料調査等の結果、直接的な環境影響を受けないものと考えられることから、予測は行わないものとした。

建物の寸法や施設の配置の条件は図 10. 10. 2-1 に示す（計画施設の色彩や意匠は、プラントメーカーからの提案により決定することから、作成したフォトモンタージュは現時点でのイメージである）。なお、建屋の寸法は、想定される最大値を採用した。



注) 計画施設の色彩や意匠は現時点でのイメージである

図 10. 10. 2-1 (1/2) 計画施設の建屋寸法等

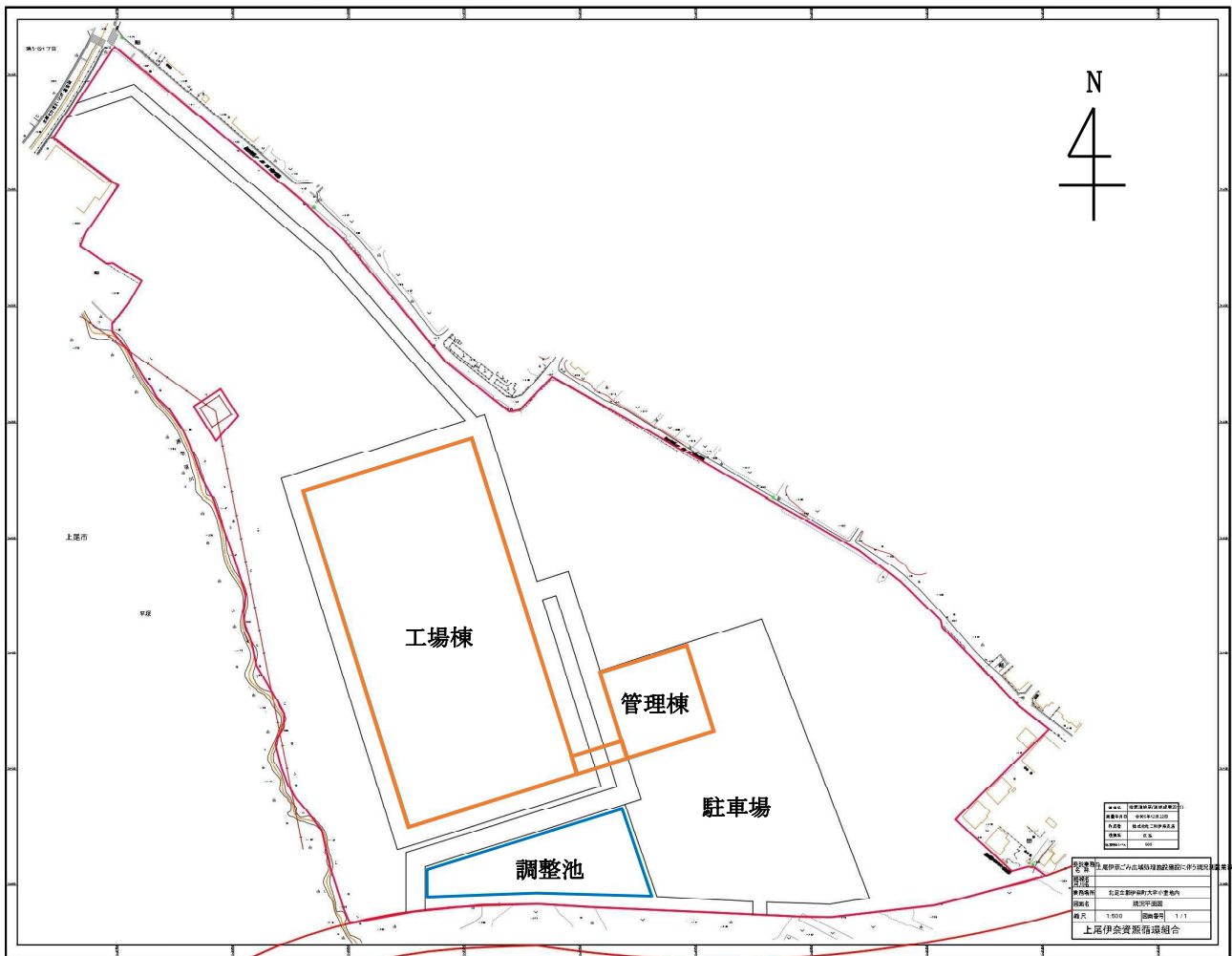


図 10.10.2-1 (1/2) 計画施設の建屋寸法等 (施設の配置)

② 予測地域及び予測地点

予測地点は「主要な眺望景観の状況についての現地調査地点 (L-1~L-11)」と同様とした (図 10.10.1-1 参照)。

③ 予測時期等

工事が完了した時点とした。

(3) 予測結果

予測結果を表 10.10.2-1 に示す。

年間を通じて最も視認性が高くなった冬季について、フォトモンタージュを作成した (図 10.10.2-2 参照)。

表 10.10.2-1 予測結果

地点名	対象事業実施区域からの距離	主要な眺望景観・眺望点の状況
L-1 セキチュー（ホームセンター）屋上駐車場	北 約 150m	現況は、人工構造物（ガソリンスタンドや住宅、電柱、鉄塔等）や樹林、農用地が混在した景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の大部分が明瞭に視認できる。視野を遮るものがなく、人工構造物が出現することから、眺望に変化が生じると予測される。
L-2 対象事業実施区域（北）	北側敷地境界付近	現況は、人工構造物（駐車場や鉄塔）のほか、草地、水路、樹林等の自然的要素が混在した景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の大部分が明瞭に視認できる。また、至近距離であることからやや圧迫感があり、眺望に変化が生じると予測される。
L-3 隣接民家付近（北）	北東側敷地境界	現況は、建築物（観音堂）、道路、樹木を主体とした景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設が視野の大部分を占めることから強い圧迫感があり、眺望に大きな変化が生じると予測される。
L-4 隣接民家付近（東）	東 約 250m	現況は、果樹園、住宅、道路、樹木を主体とした景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の一部が視認できる程度であり、眺望の変化は小さいと予測される。
L-5 隣接民家付近（南）	南側敷地境界付近	現況は、農用地（遊休農地）、草地、樹木を主体とした景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の大部分が明瞭に視認できる。計画施設の至近距離であり、視野を遮るものがなく、人工構造物が出現することから、眺望に大きな変化が生じると予測される。
L-6 町道第 15 号線	南東 約 500m	現況は、一部に人工構造物（駐車場や鉄塔）が見られ、草地、樹木等が多くを占める自然的要素を主体とした景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の大部分が明瞭に視認できる。計画施設との間には視野を遮るものがなく、人工構造物が出現することから、眺望に変化が生じると予測される。
L-7 県道さいたま菖蒲線	西 約 200m	現況は、人工構造物（駐車場や鉄塔）、農用地、重機等を主体とした景観が構成されている。 施設の存在時は、計画施設及び煙突の上部が明瞭に視認できることから、眺望に変化が生じると予測される。
L-8 羽貫駅	北北西 約 1.1km	現況は、駅のホーム壁、住宅等の人工的要素を主体とした景観が構成されており、後方に日本薬科大学や埼玉県立がんセンターの建屋がわずかに視認できる。 施設の存在時は、駅のホーム壁によって計画施設及び煙突は視認できないことから、眺望に変化はないと予測される。
L-9 伊奈中央駅	東 約 1.0km	現況は、視野の大半を駅のホーム壁が占め、住宅や樹木がわずかに視認できる程度であり、冬季の天気の良い日には秩父多摩甲斐国立公園の山間部や富士山も視認できるが、視野に占める割合は小さい。 施設の存在時は、駅のホーム壁越しに計画施設及び煙突の上部がわずかに視認できるのみであり、眺望の変化は極めて小さいと予測される。
L-10 志久駅	南東 約 1.4km	現況は、視野の大半を駅のホーム壁が占め、住宅、日本薬科大学の建屋、樹林等がその隙間から視認できる程度である。 施設の存在時は、樹林等に遮られて計画施設及び煙突は視認できないことから、眺望に変化はないと予測される。
L-11 綾瀬川沿い ジョギングロード	北北西 約 2.0km	現況は、農用地、住宅、鉄塔が混在した景観が構成されている。 施設の存在時は、住宅等に遮られて計画施設及び煙突の上部がわずかに視認できるのみであることから、眺望の変化は極めて小さいと予測される。

【現況】



【施設存在時】



図 10.10.2-2 (1/11) 眺望景観の変化 (L-1 セキチュー (ホームセンター) 屋上駐車場)

【現況】



【施設存在時】



図 10.10.2-2 (2/11) 眺望景観の変化 (L-2 対象事業実施区域 (北))

【現況】



【施設存在時】

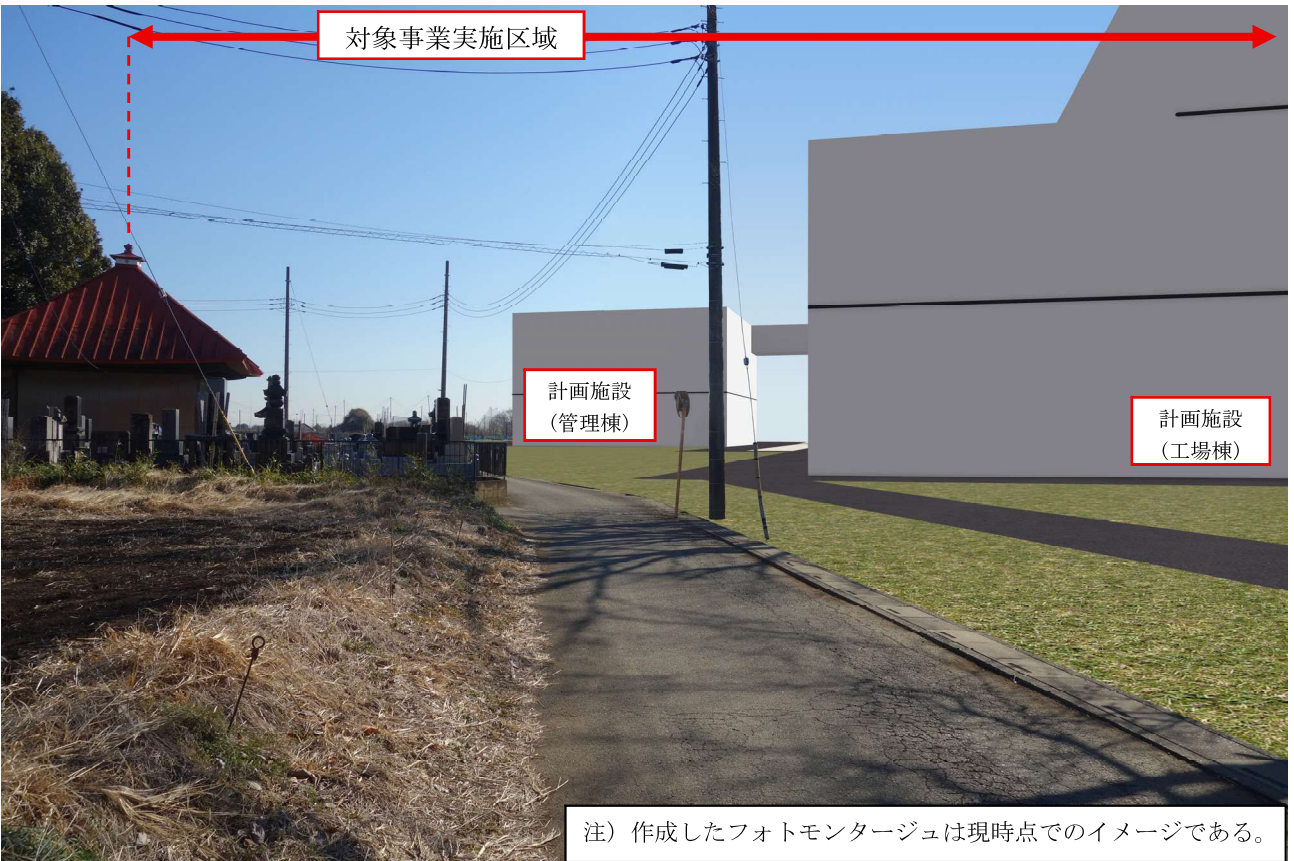


図 10.10.2-2 (3/11) 眺望景観の変化 (L-3 隣接民家付近 (北))

【現況】



【施設存在時】



図 10.10.2-2 (4/11) 眺望景観の変化 (L-4 隣接民家付近 (東))

【現況】



【施設存在時】

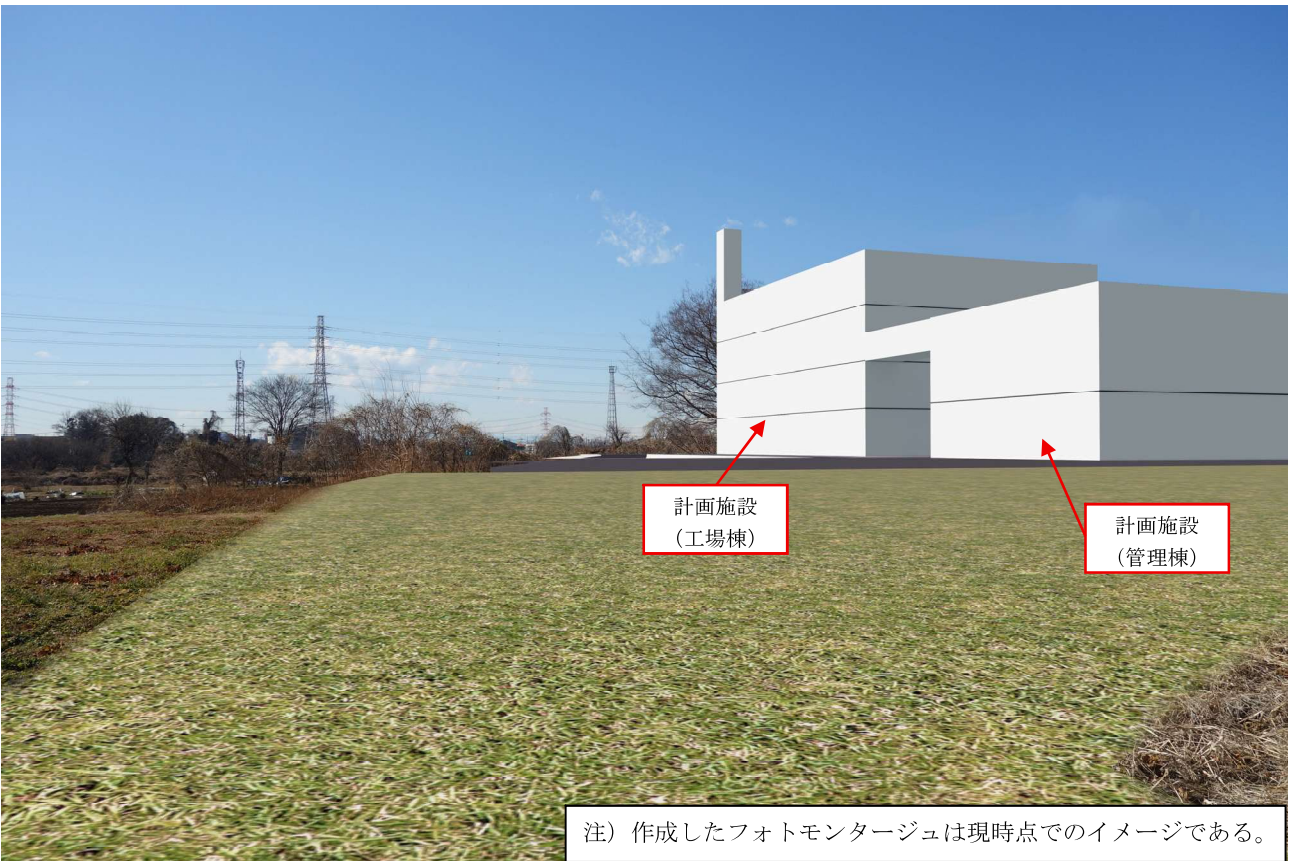


図 10.10.2-2 (5/11) 眺望景観の変化 (L-5 隣接民家付近 (南))

【現況】



【施設存在時】



注) 作成したフォトモンタージュは現時点でのイメージである。

図 10.10.2-2 (6/11) 眺望景観の変化 (L-6 町道第 15 号線)

【現況】



【施設存在時】



注) 作成したフォトモンタージュは現時点でのイメージである。

図 10.10.2-2 (7/11) 眺望景観の変化 (L-7 県道さいたま菖蒲線)